

専大校友を訪ねて

朝の情報番組に出演するお天気キャスター

小林 正寿さん (平23文)



爽やかな語り口と親しみやすい解説が人気のお天気キャスター小林さん。昔から地理が好きで、専大では環境地理学を専攻。教師を志し教職課程も履修した。「相手に分かりやすく物事を教える」ところは教師もキャスターも同じ。教職課程で学んだことは今の仕事にも役立っている」と振り返る。

「日本一思いやりのある気象予報士」に

と柔軟な対応力が求められる。そのため日ごろからアンテナを張り、ジャンルを問わず多くの本を読むことを心掛けていくという。「1週間に10冊が目標。大型書店に通うのが好きで、全てのフロアを見て回りまわす」と楽しそうに話す。毎日の天気予報の振り返りも大事な日課の一つ。過去の天気図などをまとめた自作のノートは100冊以上に及ぶ。「気象予報士になる前よりも今の方が勉強しています」

イタリアの文学翻訳賞受賞

元留学生のコーチ氏 日本現代文学を紹介



出牛正芳元学長(中央)、柘植教授(右端)らと。左後列がコーチ氏=2004年、生田キャンパス

本学大学院の元留学生で、現在イタリア・トリノ大学教授として日本語・日本文学を研究しているジャンルーカ・コーチ氏(平16院文博)がイタリアで文学翻訳賞を受賞した。大学院で日本文学を学び、帰国後は翻訳者として、また研究者として日本文学を広くイタリアに紹介してきたコーチ氏は「世界中の愛情や友情をつなげる『橋』というべき翻訳の専門家として、今回の受賞をたいへんうれしく思います。これからも多くの学生にこの『橋』の正しい渡り方を教えたいと思います」と喜びを語ると同時に、「私の心の中に常に専修

寄付で学生を支援

李振全さん マスク1万枚も



6月上旬、李振全さん(平22法)が写真に写っているように、学生を支える経済支援奨励学生募金に多額の寄付をいただいた。併せてマスク1万枚も寄贈いただき、李さんは「どんな状況でも学び続けることを諦めないで」と在学学生にエールを送った。李さんは中国遼寧省出身。松岡啓祐教授の下で会社法を学んだ。また、日本語の習得に励み、1年次の時に学内の留学生日本文学スピーチコンテストで優勝した。今回のコロナ禍では、学費と生活費のためにアルバイトをしてギリギリの生活をしてきた自身の学生時代を思い出し、今自分が学生だったから、困窮し、学び続けることができなかつたかもしれないと話している。在学学生に力になりたいと寄付を決めた。

日本文学の魅力に触れ、早稲田大学に留学。ポツプカルチャーや現代文学を学ぶため、本学文学研究科で柘植光彦元教授(故人)に師事した。「すばらしい5年間でした。現代日本文学の傑作を研究する柘植研究室で、柘植先生や榎田萬治元教授(現・文芸評論家)、坂則子教授らにお世話になりました」と振り返る。

イタリアでも新型コロナウイルスによる大きな影響が出た。文学の力、特に紙の本の力は重要で、文学への知識が深くなければならぬ。新型コロナウイルス感染拡大のよう暗い時期でも、少し明るい気持ちになって立ち向かうことができるのではないだろうか」と文学の力を語った。

李さんは2016年に独立し、都内で金属と樹脂の輸出入を手掛けるEBC株式会社を営んでいる。依頼を受けてマスクを扱うこともあり、緊急事態宣言が解除され、街に人が戻るとの時期こそマスクが必要と、1万枚を寄贈した。「学生生活で必要な時に役立ててほしい」と話す。

『ソーシャルディス談修』立川談修さん CDを発売

家立川談修さん(平7法)が自主制作した落語CD『ソーシャルディス談修』(2枚組、落語五席収録、送料込み3000円)が販売中だ。談修さんは

新型コロナウイルスが全世界で猛威をふるってからはや半年近く。この間、専修大学では、令和になって初の卒業式や入学式が中止となり止まらした。その後の緊急事態宣言により、日本中が自粛の波に覆われました。宣言は解除されたものの、第2波が懸念される昨今、オンライン授業に学生も教員も疲弊しているところだと思えます。

地元と自分の再発見

自粛の期間、皆さんは何をしておりましたか? 遠出もできず、近所の目もあることから、家の中でネットゲーム? いえいえ、町に出るのが怖い、という人も多いと思います。でも、全く外に出ない生活を続けていることは不可能でしょう。まずは地元から、住んでいるのに、初めて通った坂、ひっそりと建つ神社に出会ったりと、今回のことがなると体力が落ち、交感神経の働きも悪くなり、ネガティブな思考に陥りやすくなると免疫機能が低下するとか。万全な感染対策を施して、まずは地元と自分の再発見をしてみるのが、新しい生活を行うためのリハビリになるような気がしてなりません。(学生相談室員・坂詰智美)

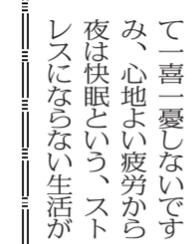


健康フラッシュ ければ知らずに過ぎていたのかも。そして、地元の歴史の奥深さに触れ、歴史に浸る楽しさを再発見しました。家の中で情報番組を見たり一喜一憂したり、心、心地よい疲労から夜は快眠という、ストレスにならない生活が

専大の落語研究会OBで、故・立川談志さんが認めた最後の真打ち。CDには『長屋の花見』が主役。『目黒の秋刀魚』とバラエティーに富んだ演目を収録。談修さんは、四季折々の演目が並び、どの季節に聞いてもよい作り

『ソーシャルディス談修』

芝宮良之氏(しばみや・よしゆき)が代表理事を務める「校友会代議員会」報告を掲載。「われら専修人」では、益子焼陶芸作家の藤本左近さん(平14経営)が登場。藤本さんの作品は、神田10号館1階併設の「SENDAI-Kaffee」に展示されています。



緊急支援チャリティゴルフ大会 中止のお知らせ 毎年恒例の「校友会ゴルフ大会」。今年は10月16日(金)に「緊急支援チャリティゴルフ大会」として開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況などを考慮した結果、残念ながら中止とさせていただきます。ご理解いただきありがとうございます。

専大の落語研究会OBで、故・立川談志さんが認めた最後の真打ち。CDには『長屋の花見』が主役。『目黒の秋刀魚』とバラエティーに富んだ演目を収録。談修さんは、四季折々の演目が並び、どの季節に聞いてもよい作り

校友新社長 紹介

7月15日刊行の校友会誌「アドニス92号」